

身近に防災を感じよう。ダークツーリズムを知る!

東日本大震災被災地応援実行委員会では、東日本大震災や阪神・淡路大震災で起きたことをはじめ、現地で暮らす方々のもとを訪ねて目で見て知ろうという活動を続けてきました。「被災地に寄り添う活動」を続けるには記憶を風化させないため後世に伝えることが大切です。今回は記憶を残す取り組みとして「ダークツーリズム」を紹介します。

ダークツーリズムは1990年代にイギリスで提唱されはじめました。人間の悲しみや苦しみの記憶を巡る旅を指しますが、それによって戦争や災害、人権侵害に関わる事件、環境破壊、原子力発電所事故などの問題を捉え直すことができます。日本では広島・長崎の原爆遺構などが連想しやすいですが、ハンセン病の隔離施設や水俣病に関する資料館なども当てはまります。自然災害が多発する日本で、記憶を風化させないよう取り組む資料館を以下に載せます。

①洞爺湖町：火山科学館

1977年・2000年に噴火した有珠山の火山活動を映像や体感装置で知ることができます。また周辺の噴火口群では、散策路から白い水蒸気が見えます。火山活動に関する防災意識を蓄えられるのでは！



②気仙沼市：東日本大震災遺構・伝承館

昨年、実行委員会のメンバーが訪問した施設。被災した気仙沼向洋高校の旧校舎を当時からそのままの状態で見学しています。北へ車で1時間行くと岩手県の陸前高田市に着き、奇跡の一本松や追悼施設、まちづくり情報館を見学できます。

この写真は実際に目で見て文化祭で発表できました！



